



**奥多摩町教育委員会の  
教育目標と方針について**

奥多摩町教育委員会では、憲法、教育基本法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、その他の教育関係諸法令並びに東京都教育委員会の方針等に基づき、町の現状と課題を踏まえて、教育目標と方針を定めています。

本年度、最初の発行にあたり、皆様に改めてお知らせするとともに、子どもたちにとって将来を見据えたより良い教育環境の実現のために教育行政を推進してまいります。

「住みたい 住み続けたい みんなが支える癒しのまち 奥多摩」をまちづくりのキャッチフレーズとする町の第5期長期総合計画を指針とし、次代の町を担っ

令和2年6月1日現在	
児童数	147名
生徒数	68名
教職員数	46名

ていく人材の育成を最重点課題とし、知・徳・体の調和のとれた人間を育てるため、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育成する教育を推進し、子どもたちの「生きる力」を育む。

そのために、学校、家庭、地域が連携し、だれもが生涯を通じて、学び、支え合うことのできる地域社会の実現と、まちづくりの基本方針の1つである「町の中と外から関心をもたれる教育のまちづくり」を推進する。

互いの人格を尊重し、心身ともに健康で、かつ、知性、感性、道徳心に富んだ豊かな人間性身に付け、広く国際的視野と社会に貢献しようとする意識を持った町民の育成に努める。

自ら学び、自ら考え行動する個性と、創造力豊かな人間の育成に向け、学校教育、社会教育を充実し、生涯にわたって学習

の場が得られるよう教育行政を推進する。

町の基本構想を指針とし、長期的展望に立って教育・文化・体育等の諸施策の充実に努め、町民憲章に定める目標の実現を目指す。

**(2) 基本方針**

奥多摩町教育委員会は「教育目標」を達成するために、以下の基本方針に基づき、教育施策を推進する。(各方針の説明については、抜粋してあります。)

○基本方針1 「人権尊重の精神」と「社会貢献の精神」の育成

子どもたちが、自尊感情をもち、全ての命を大切にし、人を思いやり、社会の決まりを身に付けて健やかに成長できるように、郷土を愛し、自立した個人を育てる教育を行う。

○基本方針2 「確かな学力の定着」と「個性や創造力の伸長」の推進

確かな学力の定着と、個性と創造力を伸ばす教育を実践することにより、グローバル化社会、

情報化社会に対応することができ子どもを育成する教育を推進する。

○基本方針3 「総合的な教育力」と「生涯学習」の充実

家庭・学校・地域の教育力を高め、その連携の推進を支援するとともに、町民が生涯を通じて、自ら学び、文化・スポーツに親しみ、社会参加の機会の充実を図る。

○基本方針4 「町民の教育参加」と「学校経営の改善」の推進

地域の特性を踏まえた広域的な視点に立つ教育行政を進めるとともに、町民に信頼される魅力ある学校づくり、開かれた学校づくりを目指した学校経営を支援する。

○基本方針5 「伝統文化の保存」と「郷土愛育成」の推進

郷土を知り、郷土を愛する心を育成し、町の発展に寄与しようとする町民を育てる。



新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う  
町立学校での対応について

令和2年2月27日に開催された政府第15回新型コロナウイルス感染症対策本部における要請に基づき、奥多摩町でも児童・生徒の健康を第一に考え、町立学校を3月2日から春季休業まで臨時休業としました。

その期間中、子どもたちの学習を保障するために、小学校は週に1回登校日を設け、家庭学習の課題の配布や回収を行いました。中学校はタブレット端末を用いてオンラインで課題のやり取りを行いました。他にも、ストレス発散や運動不足の解消を目的として、放課後の校庭開放を実施しました。

新年度に入っても都内の感染状況は増加傾向にあり、感染者の爆発的な増加が発生しかねない厳しい状況にあったことから、東京都の方針に沿い、4月6日から5月6日までを臨時休業としました。

そのような中、4月7日には、国から新型コロナウイルス等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言が発令されました。そこで、

人との接触をできる限り減らすため、小学校では、これまでの登校日を、休んでも欠席扱いとせず、保護者が課題の提出や受け取りをしても良い課題提出日とし、新しい学年での学習をスタートさせました。中学校では新一年生にもタブレット端末を配布し、オンラインによる教員とのやり取りを継続しました。

また、4月からは、臨時休業の長期化に伴い、日中、一人で留守番をすることが難しい小学生のために教室を開放し、自習をして過ごしてもらうことで、居場所を確保しました。

さらに、5月4日の緊急事態宣言の延長を受け、5月31日までを臨時休業とし、年度をまたいだ臨時休業は、実に3か月にも及びました。

学校が再開されましても、感染予防のために、さまざまな教育活動が制約されます。また、授業時数の確保のため、夏休み期間や行事の見直しも必要となります。

保護者の皆様には、御理解と御協力の程、どうぞよろしくお願いたします。

令和2年度 教職員の人事異動がありました

学校名	転出者			転入者等		
	担当	氏名	新任校等	担当	氏名	前任校等
古里小	特別支援	市川 祥子	退職	特別支援	金丸 淳一郎	東京都立羽村特別支援学校
	全科	田中 直子	退職(再任用で古里小へ)	全科	田中 直子	再任用
	養護	峰岬 孝子	退職(再任用で古里小へ)	養護	峰岬 孝子	再任用
氷川小	副校長	山根 祐哉	青梅市立成木小学校	副校長	野尻 迅人	立川市立第九小学校(副校長昇任)
	全科	安藤 浩太	昭島市立光華小学校	全科	峯岸 寛美	立川市立西砂小学校
	—	—	—	全科	服部 志濃生	八王子市立高嶺小学校
	全科	返町 保治	退職(再任用で氷川小へ)	全科	返町 保治	再任用
	全科	小山 裕美子	あきる野市立多西小学校	特別支援	光武 和香子	産育休業より復帰
	養護	村田 直美	退職	養護	蘭草 志桜里	産育休業より復帰
奥多摩中	特別支援	後藤 愛	東京都立村山特別支援学校	特別支援	田中 優音	新規採用
	保健体育	山下 令子	退職(再任用で奥多摩中へ)	保健体育	山下 令子	再任用

全身全霊



水川小学校  
副校長 野尻 迅人

この度水川小学校の副校長を  
拝命しました。

生まれも育ちも西多摩だった  
ことから、この地で教員をする  
ことを願ってきました。東京の  
中に在りながら、質実剛健な資  
質をもつこの地域の人たちが、  
本当に大好きです。

その一方で、世の中は目まぐ  
るしく変化を続けています。今  
はコロナウイルスとの戦いとい  
う、全く予期しなかった状況に  
世界中の人たちが置かれていま  
す。もって生まれたものを大切  
にしなが、さまざまな変化に  
対応できる多様さを身に付ける。  
今の教育に強く求められている  
ことです。

そのような力をつける教育を  
実践できるよう、学校の要とし  
て全力を注ぐ所存です。どうぞ、  
よろしく願います。

3年ぶりの奥多摩

古里小学校 金丸 淳一郎

羽村特別支援学校から異動し  
てきました。その前は水川小学  
校にいたので、久々の奥多摩で  
す。通勤途中に、ヤマツツジな  
どの花が咲き乱れているのを見  
て、故郷に帰ってきたようにな  
れしい気持ちになりました。

特別支援学校で強く感じたこ  
とは「障害の有無にかかわらず、  
誰もが成長したいという気持ち  
をもっている。適切な支援によ  
つて、より良い学習や活動がで  
きる。」ということ。子ども  
の困りに寄り添い、心も体も  
元気に学校生活を送ることがで  
きるように力を尽くします。

念願の奥多摩の地

水川小学校 峯岸 覚美

水川小学校の赴任が決まった  
瞬間のガッツポーズ！自分でも  
驚くほど自然にガッツポーズし  
ていました。それだけ、奥多摩  
の地で働くことをずっと願って  
いたので、水川小学校の子ども  
たちと接することができて嬉し

い気持ちで一杯です。

実際に赴任してみると、素敵  
な所がありすぎて、毎日の充実  
感と言葉に表すことができない  
程です。

長かった休校が明け、これま  
での分も含めて充実した学校生  
活になるよう、子どもたちと毎  
日楽しく過ごしています。素直  
で笑顔が本当に素敵な子どもた  
ち。これからは楽しみで仕方あ  
りません。

美しい自然と心

水川小学校 服部 志濃生

今春、八王子市の高嶺小学校  
から転任してまいりました、服  
部志濃生（はっとりしのぶ）と  
申します。

周りを美しい深緑色の山並み  
に囲まれた校舎で、子どもたち  
と一緒に過ごせる日々を楽しみ  
にしております。

水川小では、プログラミング  
教育の推進やICT機器の充実  
も図られており、大自然に恵ま  
れたアナログ環境と最先端のデ  
ジタル教育が共存する環境で、  
授業ができることも興味深く感

じています。

社会の中で活きる学力、思い  
やりのある優しい心を育ててい  
きたいと思っております。よろ  
しく願います。

私のスタート地点

奥多摩中学校 田中 優音

初めまして。大阪府出身、東  
京へ来て3年目となります。専  
門は国語で、この3年はあきる  
野市と青梅市で働いておりまし  
たが、今年度より奥多摩中学校  
の特別支援教室に採用となりま  
した。自分がこれまで見聞きし  
てきた学校規模とかなり異なり  
戸惑っています。生徒一人ひと  
りとより深く関わり、しっか  
りとサポートしていくことが可  
能な点で、とても楽しみにして  
います。国語科の専門性を生か  
しつつ、生徒により良いコミュ  
ニケーションスキルを身に付け  
させたいと考えています。生徒  
の気持ちに寄り添い、楽しみな  
がら、共に成長し続ける教員で  
ありたいです。精一杯勤めます  
のでよろしく願います。

### 図書館より 新しい本のご紹介

#### 一般書

#### 告解

葉丸岳著 講談社

#### 輪舞曲

朝井まかて 著 新潮社

#### 猫を棄てる

村上春樹 著 文藝春秋

#### 逆ソクラテス

伊坂幸太郎 著 集英社

#### いつも卵があるといい

グラフィック社

#### 切り花を2週間長持ちさせる

家の光社

#### 児童書

#### ダンゴムシがやってきた

ゆーちみえこ 絵 アリス館

#### もりのかばんやさん

ふくざわゆみこ 作・絵

学研プラス

### 教育委員会の動き

(令和元年11月～令和2年3月)

- ◎11月定例会(11月21日)  
・協議事項―令和2年度奥多摩町教育委員会の教育目標・基本方針について
- ◎12月定例会(12月19日)  
・教育長報告・教育課長報告他
- ◎1月定例会(1月29日)  
・教育長報告・教育課長報告他
- ◎2月臨時会(2月12日)  
・議案第1号―奥多摩町立学校管理職の任命について
- ◎2月定例会(2月25日)  
・議案第2号―奥多摩町立学校区域外就学の承認について他8議案
- ◎3月定例会(3月24日)  
・議案第11号―令和2年度教育課程の承認について



### 教育相談室のご案内

#### 《新たなスタート》

#### スクールソーシャルワーカー

八木橋 咲月

新型コロナウイルスの感染予防のため、3月から休校が続いた状態での新年度のスタートとなりました。6月からようやく登校が再開となり、学校で子どもたちの元気な姿が見られ、賑やかな学校が少しずつ戻ってきたように感じられます。

子どもたちも保護者の皆様も、数か月間に渡り、状況の変化に合わせた、生活や学習への取り組みを工夫し頑張ってください。一方、登校が再開となったことで見えてきた心配事もあるかもしれません。

教育相談室では、お困りになつていたり、心配なことのお話を伺っております。電話等でもご相談ができます。どうぞお気軽にご相談ください。

奥多摩町ホームページの教育相談室のページでは、新型コロナウイルスに関する心のケア等に関する情報も掲載しています。

感染予防等、登校再開後も何かと気の抜けない日々が続くと思われます。ご家庭でも既に取り組んでいただいている内容もあるかと思いますが、参考にしていただけたら幸いです。

#### 奥多摩町教育相談室

【場所】奥多摩町福祉会館2階  
【開室日】月～金曜日  
午前9時～午後4時  
(土・日・祝日・年末年始はお休み)

#### 【相談の形】

○来室相談○電話・メール相談  
※来室相談は、電話、FAX、メール等で予約をお願いします。

#### 【相談例】

- ・学校生活や日常生活でのお子さんへの心配(学校にいけない、登校渋り、友達と上手く遊べない、困った癖があるなど)
- ・お子さんの発達に関するご相談(言葉の理解や発達が遅い様に感じる、勉強に意欲が出ない、学力面について)

#### 【その他できること】

- ・福祉手当てやサービス、相談機関、医療機関などのご紹介
- ・お子さんへの指導・支援など

【電話・FAX】(83)-2340  
【メール】okusoudan@town.okuta.tokyo.jp

## 平成31年度奥多摩町学校給食センターの運営と決算報告

平成31年度は、年間給食回数、小学校174回・中学校177回を実施し、総食数は49,495食（小学校32,392食、中学校17,103食）を提供しました。前年と比較すると7,322食減少となりました。昨年10月には台風19号の影響により7日間の臨時の給食メニューを提供しました。また3月には新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う一斉臨時休業により給食数が大幅に減少しました。

栄養面では、全体にバランスのとれた内容になるよう献立を工夫し、旬の素材を使用した、できるだけ手作りの給食を提供するように努力しております。また、調理後短時間で提供できるように努め、衛生面には特に注意を払っております。

給食費については、小学校は月額、低学年（1・2年生）3,800円、中学年（3・4年生）4,100円、高学年（5・6年生）4,400円、中学校は月額5,300円として運営しました。保護者の皆様からいただいた給食費は全て食材料費として使われ、1食当たりの食材料費は約270円となりました。収支差引残額については、次年度に繰越しをさせていただいております。また、令和元年6月15日の学校給食センター運営委員会において給食費の改定について決定いただき、令和2年4月から小学校は月額、低学年（1・2年生）4,100円、中学年（3・4年生）4,400円、高学年（5・6年生）4,700円、中学校は月額5,600円の給食費となります。

食材料費以外の人件費、光熱水費等については、全て町で負担しております。

なお、町では、子ども・子育て支援推進事業の一環として、給食費の全額助成を行っており、保護者の皆さまには一旦納入をお願いいたしますが、後から助成が行われております。

## 平成31年度奥多摩町学校給食センター会計収支決算書

自平成31年4月 1日

至令和 2年3月31日

(単位：円)

### 収入の部

科 目	予 算 額	収 入 済 額	比 較 増 減	説 明
1 給食費	15,044,860	14,968,960	△ 75,900	
1児童給食費	6,617,460	6,393,460	△ 224,000	古里小 3,827,600 氷川小 2,565,860 過年度分 0
2生徒給食費	4,605,700	4,330,100	△ 275,600	奥多摩中 4,330,100 過年度分 0
3職員給食費等	3,821,700	4,245,400	423,700	古里小 1,131,840 氷川小 1,098,660 奥多摩中 1,375,700 センター 550,200 試食等 89,000
2 繰越金	338,023	338,023	0	
1繰越金	338,023	338,023	0	前年度繰越金
3 雑収入他	117	291,951	291,834	
1雑収入	117	1,951	1,834	預金利子・親子料理教室食材費
2その他		290,000	290,000	断水時学校給食負担金
合 計	15,383,000	15,598,934	215,934	

### 支出の部

科 目	予 算 額	収 入 済 額	比 較 増 減	説 明
1 主食費	1,855,000	2,414,239	559,239	
1パン類費	476,000	563,548	87,548	古里小学校31回、氷川小学校29回、中学校30回
2麺類費	224,000	187,429	△ 36,571	古里小学校14回、氷川小学校14回、中学校14回
3米穀費	1,155,000	1,663,262	508,262	古里小学校129回、氷川小学校131回、中学校133回
2 副食費	10,462,000	9,630,473	△ 831,527	
1副食費	10,462,000	9,630,473	△ 831,527	小学校174回、中学校177回
3 牛乳費	2,906,000	2,951,651	45,651	
1牛乳費	2,906,000	2,951,651	45,651	小学校174回、中学校177回
4 返還金	10,000	271,100	261,100	
1返還金	10,000	271,100	261,100	転出者、3月分給食費返還金(教職員)
5 手数料	0	0	0	
6 予備費	150,000	0	△ 150,000	
合 計	15,383,000	15,267,463	△ 115,537	

収支差引残金

331,471円

# 郷土奥多摩(文化財)

## その17 巨樹盛衰

文化財保護審議委員 堀口行雄

奥多摩町は日本一巨樹の多い町と言われています。特に日原地区には900本を超える巨樹が確認されています。因みに巨樹とは地上から高さ1・3mの所の幹回りを測り3m以上ある木と定義しています。

私たちの町には日原地区以外にも多くの巨樹が点在しています。天然記念物に指定されている巨樹だけでも、東京都指定で

- ・氷川神社の三本杉
- ・倉沢のヒノキ
- ・小丹波古里附のイヌグス

- ・小丹波のイヌグス
- ・梅沢のイヌグス
- ・槐木のサイカチ
- ・向寺地のアカガシ

があります。

ここに挙げた以外でも、自然豊かな奥多摩では、人知れずひっそりと佇む巨樹も沢山あるのではないでしょう。

さて、これら巨樹たちは大雨や強風、土砂崩れ、雷などの自然災害にも耐え、人の何世代にもまたがり根をおろしてきました。

そんな長生きな巨樹たちにも必ず寿命はあります。

ここ百年くらいで私たちの暮らしが大きく変わり、便利さや快適さ等の追求により、交通網の急速な発達、大気汚染、温暖化、地面のコンクリート化等の影響で巨樹にとっては決して棲みやすい環境ではなくなりました。

古里附のイヌグスを見れば、今は2つに分かれた主幹の片方は完全に腐り、もう片方も大枝を鉄柱に支えられた痛々しい姿になっていきますが、樹勢が旺盛な頃は、主幹の太さから見ても見事な樹姿だったことが想像されます。樹の衰えを加速させた要因のひとつが、すぐ上を青梅線が走り、またすぐ下を国道が通るようになったことがあげられるのではないのでしょうか。

氷川の三本杉もすぐ脇を国道が通り、根の一部に被さるようになり舗装された生活道が通っています。生育には決して良い環境

とはいえません。

一方、大檜峠の大ナラ(樹種はコナラ)は天寿を全うした巨樹といえるのでしょうか。

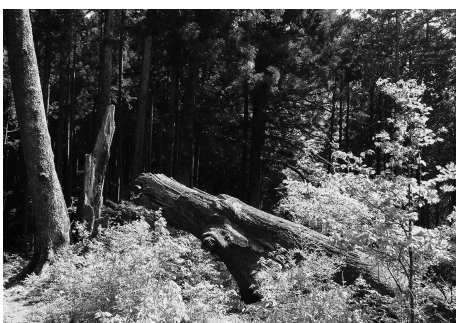
御岳山に通じる裏参道の起点にあたり、以前から多くの人に親しまれてきましたが平成15年、主幹が倒壊してしまいました。以前から根元周辺が腐り空洞になっていましたので、いつ倒壊してもおかしくない状態になつてはいましたが。

大檜峠周辺は今でも建築物等はなく昔からの状態です。本来の寿命がきたといえるのでしょうか。大気汚染や温暖化の影響が全くないとはいえませんが。

話を古里附のイヌグスに戻しますが、姿こそ痛々しく見えますが、今も大枝からは葉が茂り生きようとする力が衰えている



古里附のイヌグス



大檜峠の大ナラ(倒壊後)



大檜峠の大ナラ(倒壊前)

ようには見えません。きっと私たちの次のまたその次の世代まで生き抜いてくれることでしょう。今はコロナ禍で大変な社会状況ですが、こんな時勢だからこそ、幾多の災害を乗り越えてきた巨樹と向き合えば、心の安らぎが得られるかもしれせん。